

青年局主催・公開討論会

平成一九年九月二一日(金)午前一一時一〇分

自由民主党本部 九〇一号室

麻生太郎冒頭所見発表演説

衆議院議員 麻生太郎

麻生太郎です。自民党総裁選挙に際し、党青年局の皆様にはこういった機会を私に与えていただきましてありがとうございます。心から厚く御礼を申し上げます。

最初に、ここに参加の方をはじめ、たぶん全員全員の気持ちだと存じますけれども、今、入院加療中の安倍総裁の一日も早いご回復と、一日も早い復帰を心から皆さんとともに祈りたいと存じます。(拍手)

選挙は政治の「定期健診」

今、政治に多くの方が関心を持たれるようになりましたが、その中で、けっとう若い人も多くなってきたと思います。それはそ

れなりに良いことだと思いますが、政治に関心がなかった、またわからなかったといったことを、私は決して悪いこととは思いません。政治に関心が無いというのは、それなりに政治がうまくいっている、うまく作用しているということですから。

青年局や学生部の皆さん、若いからあまり健康に興味がないかもしれない。健康な人は、健康に興味がない。関心が無い。あたりまえのことでしょう。それが「なんとなく今日はちよつと胃の調子が……」とか、大体私たちぐらいいになるとそうなります。

若い人は、二日も三日も続けてバンバン飲めるくらい健康なんだけど、そういう状態は注意しておかないと、なんとなく調子が悪くなって、ある日、医者に行ったら、医者が深刻な顔をして

「家族の方、呼んでくださいと(笑)。大体終わつてる。そいつときは、だから、そのために健康診断とつのが時々ある。

選挙も同じなんでしょう。これは四年にいつべんなり何年かにいつべんのいわゆる定期検診。民意、有権者による検診、それが選挙なんではないか。私はそう思います。

今まで長いと日本の政治は、その基本的な方向は決まっていますから、そういった意味でほとんどの人が政治に関心がなく政治が路傍の石のように忘れられていても、そこそこの世の中はうまく回っていった。だから、多くの人は政治が果たすべき役割に関心がなかったんだと思いますよ。

「不安」はエネルギーにならない
ところが最近、若い人がえらく政治に関心を持つようになってきた。これはこれでいいことだと思いますが、同時にどうしてそんなに急に関心が持たれるようになったかを考えなければなりません。

それは私は将来に関して、皆さんが不安を覚え始めたんだと、そう理解しています。不安は不満と違ってエネルギーになりません。不満はエネルギーになるが、不安はエネルギーにならないだから問題なんです。

そついった意味でこの不安の解消という政治的課題を解決するのは、すごく大きい政治家に与えられた使命です。

この九年間連続して、自殺者は三万人を超えている現状です。交通事故での死亡者は今は一万人を割りました。しかし自殺者は三万人を超えている状態がずっと続いているとつ我が国の現状を、異常だとは思いませんか？

もつこの話は真剣に政治が取りあげ、そして討議されてしかるべきだと思う。高齢者、若い人、年齢は関係ない。自分の命を自ら断つといつのは、しかもその原因がいしめられてとか、事業に行き詰まって、とかいつ話を聞くと、悲惨な気持ちになりませんか？

皆さんのように活力溢れている人もいるけれども、そうじゃない人も世の中にはいっぱいいます。そういつ人達が抱く不安の解消を、政治家は当然考えなければなりません。基本的に今、政治に関心を持たれている多くの方々の、一番根底にあるのはそついつところじゃないかと、私はそつ思っています。

さて、自民党青年局とつと、やっぱり私が青年局長だったときに、すべての都道府県で青年局主催の街頭遊説をやつたこと

を思い出します。

青年局にしかできないこと

自分で企画立案したんですが、言ったはいいけど、やるのは大変でした。自民党の宣伝カー「あさかぜ号」が今みたいにたくさんある時代じゃありませんから、それをうまくとりよして使っていくという企画から、その実施まで自民党本部の職員達と一緒につくっていただきました。

街頭で政策を演説するだけでなく、全国の党員や有権者と語り合う機会もたくさんあったわけで、それが政策に反映される原点だとも感じていたわけです。

今、北朝鮮による拉致問題に関して青年局は、いろいろ企画されていると聞いていますが、いいことだと思います。青年局としてこの問題に積極的に関わることにはやっつけていかなきゃ。

ただ全国一斉にやった場合は一過性で終わる可能性もある。問題の本性としてむしろ継続されるような形、たとえば、街頭演説をやるにおいても、いろんな地域において連続して行う、二つに分けて北と南でやっていくなり、いろんなやり方があると思うけど、二つあったとしても青年局で一番力を発揮できることまではないかと、私はそう思っています。

「ハマコ」先生の街頭演説にたまげる

その全国遊説で、私は演説はすごく大事なものだということを勉強しました。

やっぱりすごいなあと思ったのは、自民党青年局長の経験者でもあるハマコこと浜田幸一先生の演説。彼の演説が始まるとどんどん聴衆が増えてくの。

それから、中山泰秀先生のお父さんですけども、中山正暉(余さあき)先生。この方とか、鯨岡兵輔先生の演説も、聴衆が増えていくんですよ。どんどん。だから、見てくれとか迫力だけじゃないよ(笑)。

しかし、シャベリの仕方、これだけで人が増えると思ったら大きな間違い。そういうものではなくて、きちんとした説得力。

街頭演説は、交通信号が変わる三分しか止まっていなくて、前提で話を切り換えていかなきゃいけません。あと一回信号待ってもいいなと思わせて六分聞かせる、そういう話と、このを、青年局の人は勉強すべきですよ。特に都会、いわゆる大都市と言われる人口の多いところから選出されている議員は、この点に関しては絶対に訓練すべき、練習すべき。そのためには全国遊説なんていうのはいい機会ですよ。都会出身の人が過疎

地に行つて話をしてみたらわかるよ。全く受けないから(笑)。

なぜ私はこんなことを覚えたか。衆議院が中選挙区制のとき、私の選挙区は政令都市と、中山間農地と、いわゆる中核都市と種類の違う二つの形態からなっていました。三力所とも言つことを変えない限りは全然聞いてもくれないし、有権者も反応してくれない。片一方は過疎で困つて、片一方は過密で困つて、いゝところに、同じ話をしたつて、全然響かない。有権者の民意もくみとれないわけです。そうしたのは訓練と思つて、自分で勉強しなくちゃ。それが私は青年局にいる間に、絶対皆さんが習つべきことだと思つています。

年金について知らせる八分キを出す

そこで幾つか、政策についてもお話させていただきます。私はやっぱり今、短期的な国民の最大の関心事は年金の問題だと思ひます。今年三五歳になつた人、ここに居ると思ひますが、三五歳になつた人は今、自分の年金の支給について心配してないでしょ？

なぜなら「あなたの年金は二つあります」といつ八分キを今年受け取つたはずだからです。だつたら、それと同じように、年金について不安をもっている国民に、「ここは一回、経費がかかつても「あなたの年金は二つなっています」「あなたの年金はこの程度支給できます」といつ八分キを全員に出すべき。私は、必ずそれを

実行したいと思つています。

以前、やるべきだと言つたら、「できないと言つたんです。役所のほうは、そんなことはない。必ず時間と手間ひまかけりやできるはずだ。それでも自分の記録が合わない人がいれば、きちんとそれで照合できるんだから。」

いいチャンスじゃないですか。とにかく、八分キを一回、きちんと出す。ほとんどの人にとって年金に関しては、自分が幾らもらえるか自分が損をしていないかが最大の関心なんだから、そういった意味ではそれによつて気持ちの不安、さっき言つた不安が解消されることになる。私はそういうもんだと思つています。

北朝鮮とは「圧力」なくして「対話」なし

また、拉致問題に関しては、少なくとも国際社会において、明らかに「これはテロの一種だ」と認知されるよつになつた。日本は北朝鮮に対して「対話と圧力」の政策、これをずっと一貫してやってきましたけれども、あの国に対して圧力なくして対話が成り立つたことが一回でもありましたか？

私はそれが北朝鮮との交渉の歴史だと思う。外務大臣をしているときに、北朝鮮によるミサイル発射、核実験があつた。日本はあの時、国連安全保障理事会の非常任理事国メンバーの一員と

して、国連の議論をリードし、間違いなく全会一致で、北朝鮮に対する非難決議を採択できた。

あの全会一致での決議を受けて、少なくとも北朝鮮は、六者協議という交渉に乗ってこざるを得ないことになった。あれが圧力でなくて何です？

あれこそが交渉の基本なんだと、私はそう思っています。ただただお米を何十万トンあげたら交渉に応じるといふものではないですね。もともと北朝鮮は「拉致問題は解決済み」と言っていたんですよ。それがあの決議を境に少なくとも交渉の場に出てくることになった。今回の六者協議における一回の日朝作業部会においても同様です。

私は拉致され北朝鮮にいる多くの日本人の方々が、みな「死んでいる」、「殺されている」といふ前提で交渉する気はありません。

拉致被害者家族の方々に申し上げたこと

外務大臣になってすぐの頃、拉致被害者家族の方がお見えになったとき、私は、「あなたたちは、すぐ何とかを止めるとか言うけど、それによつて今、拉致されている人がそれを理由に殺されたときは、誰が責任を取るんですか？」と。そうしたこととも考

えて、拉致被害者は生存しているといふ前提で、「われわれは丁寧な丁寧な、ここまですつと交渉してきたんです」といふことを申し上げました。

今後とも私は、「対話と圧力」といふ拉致問題解決の基本方針を変えるつもりはありません。それが私の拉致問題に関する考え方です。

「税源移譲」のもたらしたもの

そして、ここは地方から来られた県議や市議、町議、村議の方、大勢お見えなんだと思いますが、やっぱりこの六年間の小泉改革に対しては、その陰の部分に地方の不満が大きい。そういった意味で、これをどうやっていくかといふことは、大事なところで。私が総務大臣のとき、国税三兆円分の財源を地方に移管しました。全省庁反対。賛成した省庁、ゼロ。それでも小泉純一郎総理大臣の決断で、三兆円分を委譲した。間違いなく、大幅に税源が地方に渡った。

しかし同時に交付税が減った。地方交付税。この地方交付税といふのは、自分の市、自分の町、自分の県といふものを経営していく上で、自治といふ観点から自由裁量、自由に使える部分が多い。だからこそ、ここをどういふ具合にやるかといふことを、もう一回考えなければいかん時にきているんじゃないで

しょうか。

今はその算出基準の根幹が、人口割りですが、それだったら人口が減少するところはどんどん減る。しかしそういうところほどこの交付税に期待しているという現実をふまえ、対応していかねければいけない。

地方再興に不可欠の政治指導力

次に、地方のなかでも、中山間農地の話。例えば東京の人が飲んでいる水はどこから来ているのか。それは利根川だったり、多摩川からきています。その河川は誰が治水しているんです？

おおもとは中山間農地で米を作り、畑を耕している農家の人たちでしょう。中山間農地は、あれだけ治山治水に貢献しているんだから、それに対しては、農水省の施策だけでなく、もっとひろい視点から考えられてしかるべき。

農水省だけじゃなく、環境の観点でいけば環境省、森林でいけば林野庁、また従来の河川の問題でいけば、国土交通省の話になるかもしれない。そういった省庁を全部またがってやるには、それは間違いなく役所の縦割り行政ではできません。だからそれを主導する政治家の強いリーダーシップが要るんだと、私はそう強く思っております。

新総裁の最大任務とは

最後になりましたけれども、次の自民党総裁になる人の一番考えねばいかなことは、次の衆議院の総選挙において党が勝利することです。これが総裁に与えられた最大の任務であり、責任だと思っています。

皆さん方のご理解をいただいて、候補者の選定には公募制度等いろいろなものをやらせていただきましたけれども、これをうまく活用して、各選挙区支部で勝てる候補者を選ぶ。そして勝てる候補者を自民党とその人の民意をくみとる努力を相乗させて勝利する。当選させる。

そういった基本的な考え方というものを腹に収めた上で、来る総選挙の対策というものを考えていただき、この総裁選挙もそういった意味も重ね合わせて党員の、青年局の皆さんの意志を反映させていただければということをお願い申し上げます。

そして皆さんが誇れる自民党、「おれは自民党员だ」と堂々と誇れるような政党にするべく、私は全力をあげたいと思います。
ご清聴、ありがとうございました。(拍手)

（了）

